

池内遺跡(府道その2)発掘調査 現地公開資料

財団法人 大阪府文化財センター

今回の調査区(府道その2)においては、今のところ、大小3条の溝、柱列、土坑などを検出しています。このうち、溝は平安時代初め(今からおよそ1200年前)頃と考えられます。調査で出土している土器類も、およそ、この時期のものであり、古代の人々の生活の一端が明らかになったといえます。

一方、同じ土層からは、石剣や稲穂をつみとる石包丁など、弥生時代の石器も見つかりました。これにより、遅くとも弥生時代には、この一帯の土地利用が始まっていたと推定することができます。

調査区の北側にあたる昨年の調査区(府道その1)においては、同じく、平安時代初めの掘立柱建物3棟、各種の溝、井戸、土坑などを検出しました。このうち、建物1には、特別な建物に用いることの多い庇が付けられていました。

また、古代人が珍重した緑釉陶器の皿などを納めた、墓とみられる土坑も発見しました。

これらの遺構や遺物の状況から、この集落には、富裕層または公的な権力をもつ支配者層を中心とする人々がいた可能性があります。

<用語>

掘立柱建物(ほったてばしらたてもの)

柱の下端部を穴に埋め込んだ建物

庇(ひさし)

本屋根の下に設けた差しかけの屋根、および内部の空間

石包丁(いしばうちょう)

長辺の穴にひもを通して輪をつくり、ここに指を入れて稲穂をつみとる道具

緑釉陶器(りよくゆうとうき)

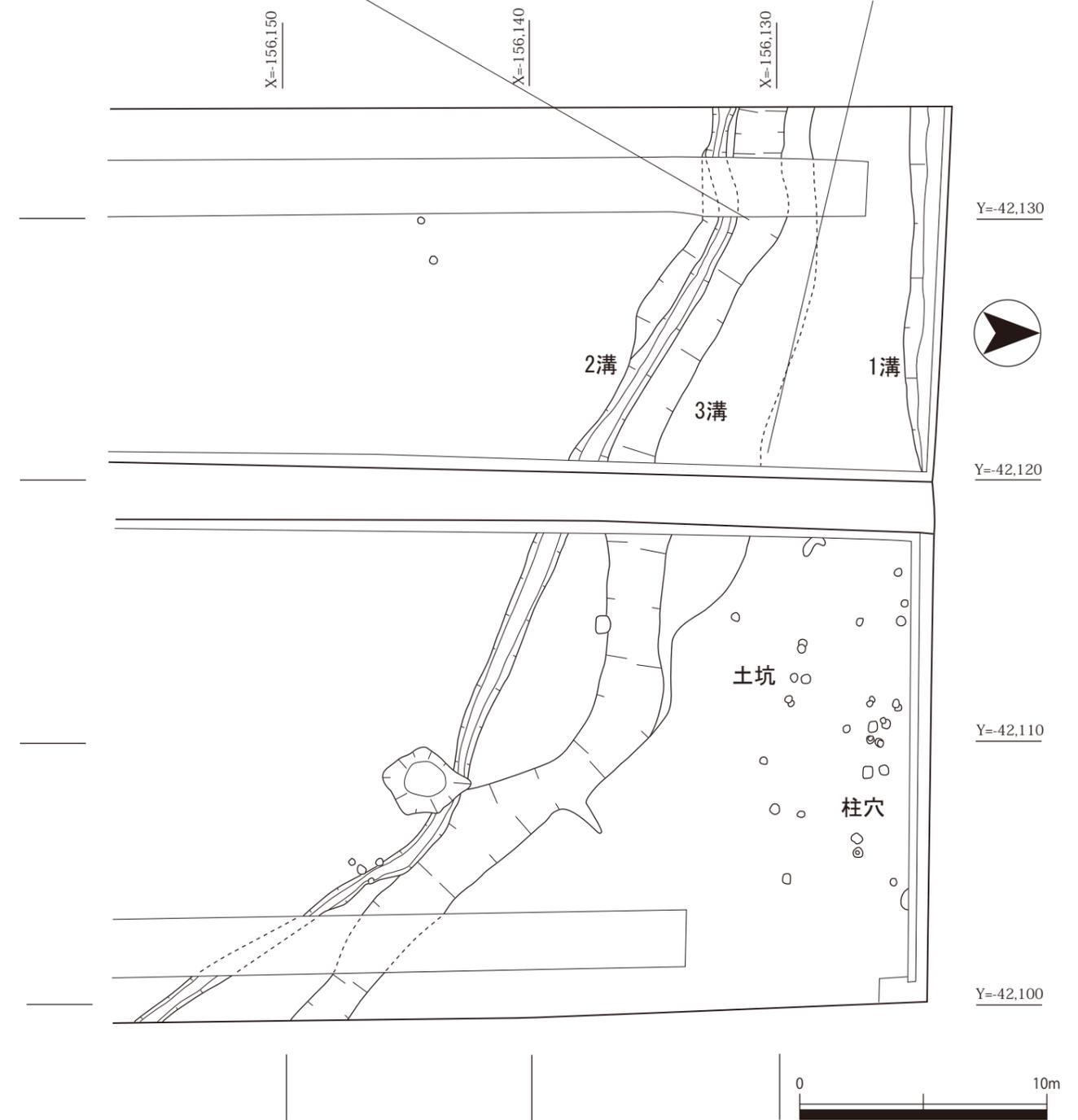
貴族層などが好んで用いた、緑色に発色する釉をかけた陶器



石包丁(弥生時代)
<2層出土>



石剣(弥生時代)
<2層出土>



池内遺跡(府道その2)調査平面図



土師器甕・黒色土器碗（平安時代）
 < 1009土器 >



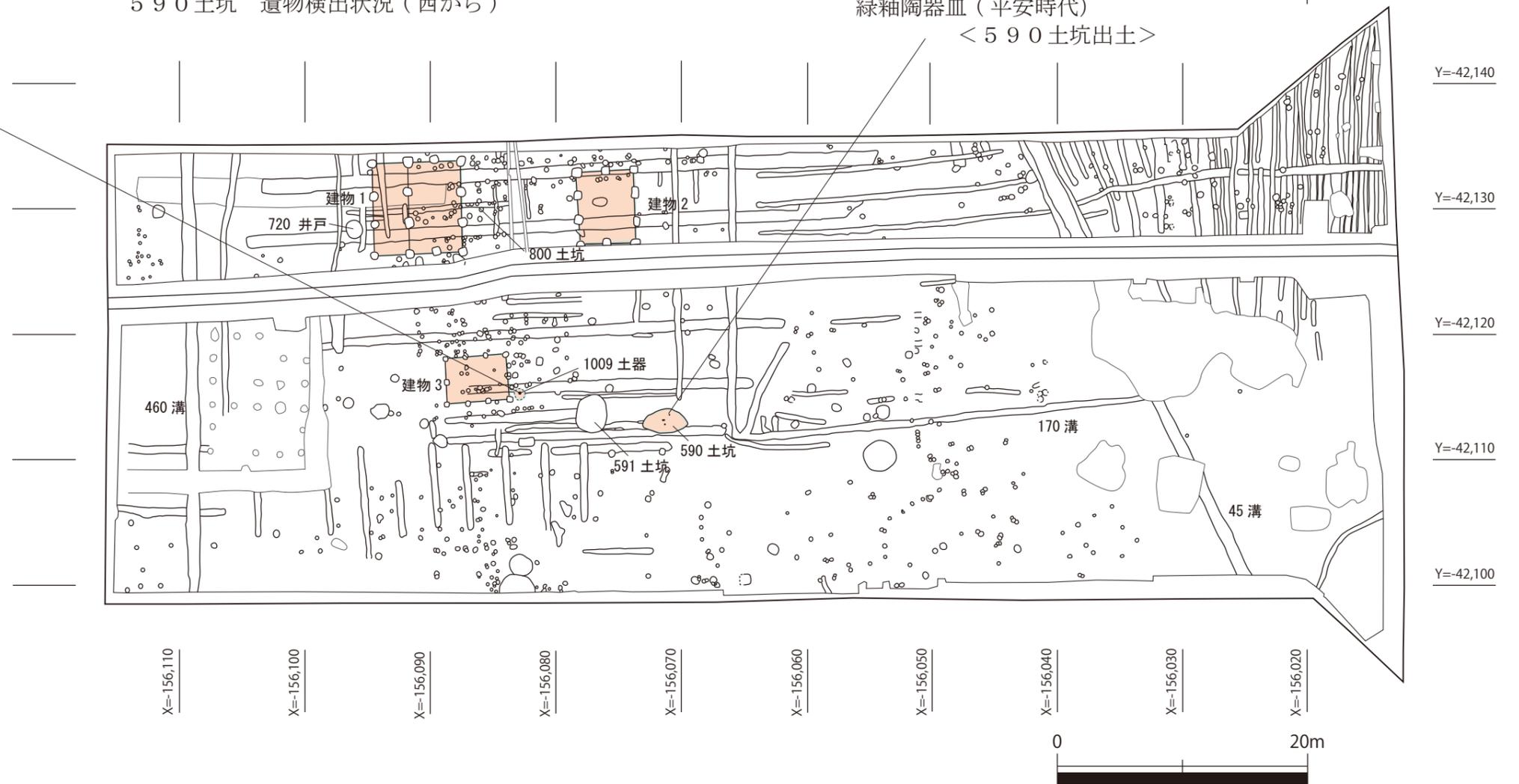
590土坑 遺物検出状況（西から）



緑釉陶器皿（平安時代）
 < 590土坑出土 >



掘立柱建物・土坑・溝 検出状況（北東から）



池内遺跡（府道その1）調査平面図